※令和４年度以降入学生用

学校番号	T3006

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	（学）社会探訪	単位数	１単位	年次	３～４年次
使用教科書	プリント教材						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

本講義では「世界遺産」について、プリントや視聴覚教材を使用し、１.世界遺産の概要　２.日本の世界遺産　３.世界の世界遺産の３テーマを学習します。世界遺産は、長い歴史の中で生まれ、受け継がれてきた人類共通の宝物であり、紛争や開発、自然環境破壊などから大切に守り、次の世代へ受け継いでいかなければなりません。その宝物である世界遺産を体系的に学び、遺産の持つ価値や魅力、自分たちの文化を深く理解できるようになりましょう。

2　学習の到達目標

・世界遺産を体系的に学ぶことで、遺産の持つ価値や魅力、自分たちの文化を深く理解する。また、グローバル化が進むなかで、学習を通して得た歴史等の知識・異文化への理解を、日々世界で起きる出来事を理解し対処するために役立てる。
・世界遺産の歴史的な成り立ちや社会的背景、文化的・環境的特質について説明することができる。また、得た知識を活かして世界の平和や安全について考察・構想するとともに、国際的な交流と協調について自信の考えを説明、論述できる。
・わが国と世界の伝統文化に対する関心を高め、国際社会を担う一員として、現代の国際社会における諸課題を主体的に追究し、他者との協働も図りながら、国際社会を主体的に生きる日本人としてのよりよい態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・世界遺産の概念、歴史的な成り立ちや社会的背景、文化的・環境的特質についても理解することができる。 ・諸地域の文化的・環境的差異だけではなく、諸地域相互の交流に触れ、世界の一本化につながっていくことを理解することができる。	・世界の風土・民族・宗教などに留意しつつ、世界遺産がもつ役割について多面的・多角的に考察したり、構想したりすることができる。また、その過程や結果を適切に表現することができる。	・自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学習しようとしている。 ・わが国と世界の伝統文化に関心をもち、国際社会を主体的に生きる日本人としてのよりよい態度を養おうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	世界遺産の基礎知識	・世界遺産とは ・ユネスコについて ・世界遺産と日本	a:世界遺産の概念、世界遺産条約誕生のきっかけ、申請・登録条件について理解している。 b:世界遺産を、紛争や開発、自然環境破壊などから守る意義について、考察・構想し表現している。 c:世界遺産の概念について学ぶことを通して、自分たちの文化や歴史について追究しようと、意欲的に学習活動に取組もうとしている。	・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ	・提出物の記述	・学習活動への参加 ・振り返りｼｰﾄ
	日本の世界遺産	・危機遺産 ・無形文化遺産 ・日本の遺産	a:危機遺産や無形文化遺産について学ぶことで、国際的な交流と協調の必要性について理解している。 b:日本固有の文化や自然を代表する日本の世界遺産から、自国の生活・文化について考察している。 c:日本の世界遺産を学習することで、わが国の歴史と生活・文化について積極的に追究しようとしている。	・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ	・提出物の記述 ・ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題	・学習活動への参加 ・振り返りｼｰﾄ
後期	世界の世界遺産	・古代文明 ・アジア世界の形成と宗教 ・ヨーロッパ中世とルネサンス、大航海時代 ・アメリカ、アフリカ、オセアニアの文明	a:諸地域の世界遺産について、民族・宗教などに着目しながら、その文化的・環境的特質について理解している。 b:世界の文化・宗教・環境について理解することで、人類の存在と環境、世界の平和や安全などについて考察・構想し表現している。 c:世界遺産をきっかけに、国際社会の一員として世界の諸問題に関心を持ち、多面的・多角的な考察・構想することを通して、意欲的に課題を解決しようとしている。	・授業ﾌﾟﾘﾝﾄ	・提出物の記述 ・ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題	・学習活動への参加 ・振り返りｼｰﾄ

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度